



子どもから大人まで 支え合い 認め合う社会へ

第 37 回

豊橋男女共生フェスティバル

報告書

令和 6 年 1 月 21 日 (日)

第 37 回豊橋男女共生フェスティバルを終えて

第 37 回豊橋男女共生フェスティバル実行委員会 実行委員長 小杉 賀洋子

第 37 回男女共生フェスティバルは、朝から冷たい雨が降り心配していましたが、皆さんにお越しいただき無事に終えることが出来ました。

開会式はハーモニカ演奏で始まり、ゆったりと温かい雰囲気会場が包まれました。午前の部では、「子育てで深めよう！家族の絆」と題してシンガーの木山裕策さんに講演をして頂きました。講演では病気を乗り越えて、あらためて感じた家族の大切さを木山家のエピソードを交えて話されました。家族のお話タイムで気づかれたことは、自分の頭で考え自分を知ると、相手の気持ちも理解できるようになるということ。それがどんな社会になってもしっかりと地に足をつけて生きる力になるということでした。共に生きる社会のためには、まず対話が重要であると再確認できました。講演の締めくくりにはミニコンサートが行われ、代表曲の「home」など 3 曲を熱唱され、会場からは大きな拍手が起こりました。

午後に行われた二つの分科会の内、映画『こどもかいぎ』では午前に繋がる内容で、お互いに何の評価もしないで自由に気持ちを出し合う様子が描かれ、子どもも大人も素晴らしい個性があふれていました。これを見ると子ども達には様々な可能性があり、未来は明るいと感じました。

「子どもから大人まで 支え合い 認め合う社会へ」をテーマにフェスティバルを開催して、私達にはいくつになっても様々なことを体験し学び進んでいく力があることに気づきました。

最後に実行委員会の各市民団体の皆さまには、様々な企画でフェスティバルを盛り上げてくださりご協力に感謝いたします。ありがとうございました。

開会式

「ハッピーグループ」の皆さんによる、和やかなハーモニカ演奏でスタートしました。浅井由崇市長からは、「職場や組織をはじめ、社会全体での男女共同参画のさらなる推進が必要と考えている。

本日の講演会の内容をご家庭や職場などでお話しいただき、身近なところから男女共同参画の機運を高めていただきたい。」と挨拶がありました。



講演会

子育てで深めよう！家族の絆 ～コロナ禍で見つめ直したコミュニケーションの力～



講師

木山 裕策さん

シンガー

1968年10月3日生まれ。大阪府出身。東京都在住。4人の息子の父。2005年に甲状腺ガンの手術を行った際、医師から「手術後に声が出なくなる危険があること」を告げられ、長年の夢だった歌手へ挑戦を決意。2007年、日本テレビ系オーディション番組『歌スタ!!』に出演。一度は不合格になったものの、「子どもたちに最後まであきらめない姿を見せたい」と異例の再挑戦を経て、2008年2月6日に家族をテーマにした楽曲「home」でメジャーデビュー。同年『第59回NHK紅白歌合戦』に初出場を果たす。

4人の子どもを育て上げた木山裕策さん。主夫として家族を支えた日々や、病気を乗り越えてあらためて感じた家族の大切さなど、ご自身の経験を交えて、子育てについてお話しいただきました。

「男は仕事、女は家庭」という固定的性別役割分担意識にとらわれない、家族の在り方を学びました。

催しと活動発表

【分科会1】

映画『こどもかいぎ』上映会 & シェア会

企画：NPOとよはしCAP



絵本でティータイム

企画：わっぱの会



ぬくもりコンサート

企画：ハッピーグループ



【分科会2】

不登校・発達障害・子育て困ったしゃべり場

企画：新日本婦人の会豊橋支部



琴で“さくらさくら”を弾いてみよう

企画：箏曲蘭友会



手織り機で裂き織りのコースターを作らしましょう！

企画：農村輝きネット・東三河



催しと活動発表

ライフアップセミナー
 メディアとジェンダー平等～価値観や意識の多様化～
 企画：豊橋市 市民協働推進課

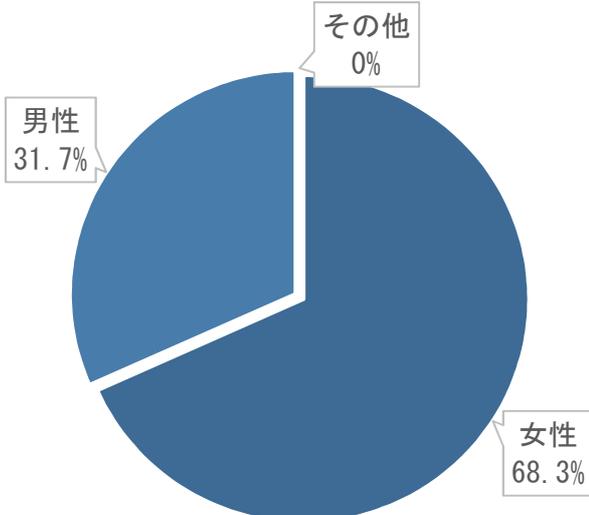


バザー
 企画：豊橋おやこ劇場協議会、ハッピーグループ、
 (公社)豊橋市シルバー人材センター綺羅の会、SIMONEKO、
 箏曲蘭友会、NPO法人クオーレ、水仙の会、えだまめの会

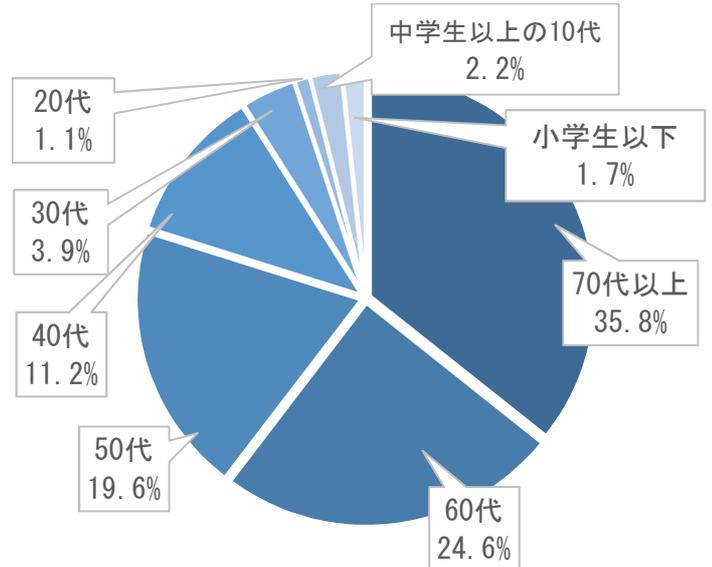


講演会アンケート結果

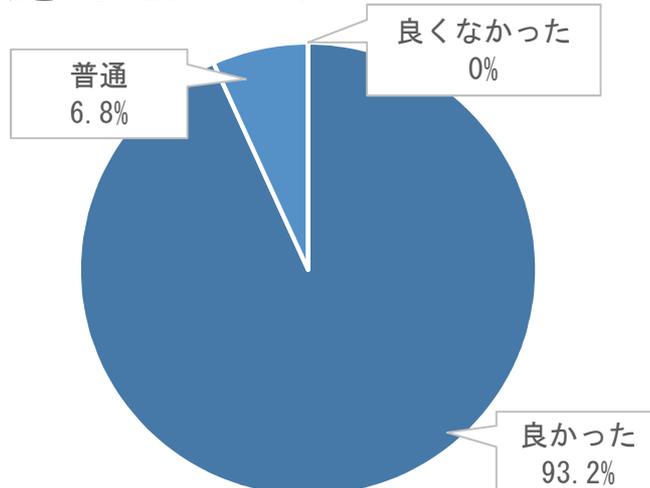
性別 (回答数：180)



年齢 (回答数：179)



感想 (回答数：162)



講演会アンケート結果

講演会に参加された方の声

- ・ 子育て中いろいろな悩みがありますがまた明日がんばろうと思いました。ありがとうございました。参加できてよかったです。
- ・ 木山さんの考え方、家族とのむきあい方が素敵だなと思いました。似た考えだと思うところも、マネしてみたいなと思うところも多く感じられました。歌もあたたかい歌声でとても素敵でした。
- ・ 子どもと対等に話すこと大切にしています。なかなか自分の子と対等ってむずかしいなあと思う毎日。あとは家事は母がやるものという考え、家にずっと残ってるんですね。少しは、みんながやるものになるようにしたいとねがつつ、がんばりすぎる自分にも反省です。



第 37 回豊橋男女共生フェスティバル実行委員会

<実行委員会所属団体>

わっぱの会、とよはし未来を拓く会、豊橋おやこ劇場協議会、東三にじの会、新日本婦人の会豊橋支部、ハッピーグループ、豊橋商工会議所女性会、マザーズサポートきらら、豊橋マリンバの会、

(公社)豊橋市シルバー人材センター綺羅の会、SIMONEKO、箏曲蘭友会、農村輝きネット・東三河、NPO法人クオーレ、NPOとよはしCAP、水仙の会、えだまめの会、NPOまんま

全 18 団体

発行：豊橋男女共生フェスティバル実行委員会・豊橋市
〒440-8501 豊橋市今橋町 1 豊橋市 市民協働推進課
電話 0532-51-2188/FAX 0532-56-5128

(令和 6 年 2 月発行)